標本棚 私と昆虫

夜の生き物観察会
―― 虫屋の社会貢献 ――

JICA国内支援委員
田原 雄一郎

千葉県松戸市牧の原二丁目町会(世帯数六百六十戸、以後、当町会)では、二〇〇三年以来、八月中旬の一夜、当町会の中央に位置する〈かぶと公園〉で、「夜の生き物観察会」を開催しています。この行事は夏祭り、バス旅行などとともに当町会の年中行事に組み込まれています。

七月上旬、ポスターを町会掲示板に張り出し、参加を呼びかけます。今年の講師陣は東大の三條場千寿さんと私が務めました。今年は午後六時から「虫のお話」「虫と病気」「公園土中の小さな生き物」「夜の公園散歩、掃除屋昆虫の観察」「アブラゼミの羽化観察」「昆虫ゲーム」「カブトムシのお土産」などとなっており、午後八時四十分には終了します。

参加者は幼稚園児から小学五年生までの学童四十名、保護者、町会役員等、合計八十名程度です。お孫さんを呼び寄せる人も散見されます。若いお母さんたちは恐る恐るながめています。

ヒトスジシマカの口吻、キイロスズメバチの毒針の顕微鏡観察に感嘆の声をあげ、羽化直後のアブラゼミが純白なのに驚きます。ヨコエビ、ササラダニ、トビムシなど微小な土壌生物の豊富さやセミの死骸に群れるシデムシ(掃除屋)の役割にも興味津々です。夏休みの自由研究に取り上げる学童も多く、町内の小さな公園の多様な生物を身近に感じる良い機会と思っています。

町内を歩いていると、「アッ、虫の先生」と呼ばれることもたびたびです。栗原毅先生に虫屋の社会貢献の好例であるとほめていただきました。

虫と私

JICAマラリア対策専門家
中村 正聡

私は三十年ほどアジアでマラリア対策に関わっており、近頃では、あれだけ沢山いたマラリア患者も激減してきている。本業のハマダラカ関係とは全く別に、現在はインターネットで知った昆虫の超接写にハマッている。

これまで私が慣れ親しんできた接写では、全体にピントを合わせるためには、できる限り絞り込み被写体深度を稼ぐ。しかし、倍率を上げれば深度は浅くなり、たとえば昆虫の顔面の高精度の拡大写真を撮ることはほとんど不可能である。

超接写のからくりは、生物顕微鏡と異なる光学特性(無限遠補正系)の金属顕微鏡の対物レンズを装着したカメラを顕微鏡の微動ステージを改造した台に載せ、ピントを数ミクロン毎に移動させて写真を撮る。十ミクロン毎であれば、一ミリのものを撮るのに百枚の写真が必要である。

その写真を深度合成ソフトで一枚の写真にしてしまう。出来上がりは、全体にピントが合った色つき走査電顕写真のごときものとなる。

私とて、まだ始めたばかりであるが、通常の写真撮影とは全く異なる工夫が求められ、いろいろ楽しませてくれる。皆様もお試しあれ。詳細は、英語版ではあるが、以下のHPに懇切丁寧に記されてある。

ニクバエの頭部

http://extreme-macro.co.uk/

http://www.photomacrography.net/forum/index.php?sid=58b9bc6d0639f6c7e698839ef5937830

シルバーシート

横浜国立大学名誉教授 青木 淳一

もう大分古い話になるが、二〇〇二年二月二日の神奈川新聞に「シルバーシートの失敗」という私の一文が掲載された。その文をここで繰り返し述べるつもりはないが、私が言いたかったのは次のようなことである。

電車の中を見回すと、若くて元気そうな若者が、シルバーシートに大股を広げて座っており、前に老人が立っても席を譲ろうともしない。

一昔前なら、頼りなげな老人や赤ん坊を抱いたお母さんが来れば、どこの席だろうと、席を譲ったものである。

つまり私に言わせれば、「ここだけはシルバーシートだから席を譲ってください」という考え方は、そもそもおかしいということである。人間が持っている「善意」というものをあきらめてしまった処置だと思う。情けない世の中だ。

私のその気持ちを汲み取ってくれた当時の横浜市の交通局長が、地下鉄の車内を「全席シルバーシート」にしてしまったのである。その素早い反応に私は驚きかつ大喜びした。

残念ながらこの措置は、一年足らずで打ち切られてしまったが、どうしたわけか最近は老人に席を譲る若者は増えてきた。喜ばしいことである。

☆一ページ小説☆
木漏れ日のような

女流画家 堀 桂子

教室の生徒達が来るのには少し時間があった。良子は庭に面した障子戸を開け放して、狭いながら手入れの行き届いている自分の庭を眺めている。

夫が他界して十二年が経っていた。そもそも書道を始めた切っ掛けは、書が好きな夫が良子を著名な書道家に引き合わせて以来だから、すでに四十年にもなろうとしていた。

毎年の書道展で、良子は審査員の目にとまるほどの作品を出展していたが、なかなか優秀賞をとるところまでは届かない自分の未熟さを思い、師や夫にいつも申しわけない気持ちで接するのであった。夫が亡くなった頃は、過ぎて行く時間が重かった。どうにもならない時間だけが滞ってしまうのだった。

そんな折、友人が子ども達に書道を教えたら?と持ちかけて来た。子供のいない良子は、どんなふうに子供に接したらよいのか自信は無かったが、友人の話に乗ることにして、教室ももう十年になろうとしている。

玄関から入ったすぐの和室に書道用の机や棚などを設置して、友人達が手分けして家の門に「書道教室」という看板のような和の板を作ってくれて、その板に良子が楷書で書いて……と整えてからというもの、生徒が結構集まり現在は十八人になった。

そんなことを想って庭を見ながら過去をふり返ると、改めて自分が見えて来た。今の良子には、それらの過去が遠い存在になり、木漏れ日の中の風景になっていた。夫は良くしてくれた。子供がいない夫婦にしか味わうことのできない同志のような結びつきがあった。

夫との日々を思うと、それは女の歓びであり、哀しみでもあった。哀歓がないまぜになって良子の裡(うち)を流れて行った。書道教室を始めてからは良子の裡に人を教え育てる喜びが芽生え、そこに生きて行く道を見出すことができた。

庭の奥の植え込みの紫陽花がひときわ青く良子をとらえた。夫の好きな紫陽花だった。「お邪魔します」……良子は生徒達の声に我に返った。

羽音

ここで概要をご紹介したエッセイをはじめ、筆者の書物が上梓されています。ご購入の上、ぜひご一読下さい。

むしくいず

「問題」次の虫扁の漢字(10文字)を読んで下さい。1文字だけ動物ではない漢字があります。それが答えです。

蟣(　　)　蝸(　　)
蝗(　　)　蠍(　　)
蝉(　　)　蛹(　　)
蚓(　　)　蟻(　　)
蛭(　　)　蝮(　　)

＊回答(　　)

◆応募規定　ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014　東京都港区芝2の23の4
アペックス産業㈱内　APEX CLUB宛
ファクシミリ番号　03-3455-6558
締切は平成29年2月末日(当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。
★前号の正解と当選者(順不同)
正解は『防虫剤』でした。
当選者: 木村一恵、武江良治、伊藤靖忠の3名様です。

東京都の感染症媒介蚊対策
蚊をなくして安全・安心!

車内広告

キャンペーンポスター

ラッピングされた都バス

政府は4月5日に感染症対策会議を開き、ジカ熱の日本での感染を予防するため、「夏の蚊対策国民運動」を全国展開し、蚊の対策に対して普及啓蒙をすることを決めました。

これを受けて東京都では、都内にラッピングバスを走らせ、電車の車内広告を行い、一般家庭向けと事業者向けのパンフレットを作ってPRしました。

そのお陰もあってリオ・オリンピックでジカ熱の感染が心配されていましたが、幸い国内での発症はありませんでした。

会員図鑑

アペックス産業(株)
業務課
田代　正樹

★子煩悩(娘さん)で、しっかり者のパパ。元バーテンダーという異色の経歴の持ち主で、自身も本来はかなりの酒豪。中途採用で入社約二年。害虫駆除の仕事に就いて、改めて蛇嫌いだということに気付かされたらしい。

最近は健康管理と体作りのために、酒量を減らし、休日はもっぱらジム通いとか。パパ頑張れ!